

留萌—旭川間の直通道路も (昭和42年度) 着工

総合都市計画にあわせ道路網の整備進む



交通量の多くなった国道231号線(大通中心街)もバイパス路線が完成すれば交通難も解決される



国道留萌—旭川間は42年度までに完全舗装される

昔、西欧と東洋を結ぶ一本の道路が、東、西の文化経済の発展に大きな役割りを果たした。これは、有名なシルク、ロードといわれていますが現代でも道路の果たす役割りは非常に大きいのです。すでに、お気づきかとも思いますが、こ、二、三年わたくしたちの留萌も急速に道路の整備が進められています。

留萌地方の中心都市として、経済、文化のへかなめとしての存在であるばかりでなく、留萌港を持ち道北の留萌として、その位置づけが重要視されるだけに、道路の整備は急速に進めなければならぬのです。

現在、道路はそれぞれ管理する区分によって国道(国が直接管理する道路で担当は留萌開発建設部)、道道(北海道知事が管理する道路で担当は留萌土木現業所)それに市道(市長が管理する)に分かれています。

具体的には①は現在の国道②は現在の国道のバイパスとして南側に新路線を作る③は留萌川北側の工業、準工業地域を縦走、港頭出入の貨物などを処理する道路とする。

これらを基本幹線として他の道路網が決定され、港湾を中心とした躍進留萌が浮きぼりにされることとなります。

しかし、このような事業は、大変なお金と長い年月が必要なので、建設省がはじめようとしている(道路整備新五カ年計画へ42年—46年)の中に、これらの計画を入れるよう働きかけ一部は国道として、または道道として整備拡充し、市も国費の補助を受けて市道

の整備を進めて行く方針です。その主なものは、まず、留萌—旭川間の直通道路(市道西五号通り)が国道に移管され改良されます。また、現在工事が進められている国道二三三号線(留萌—稚内)切替工事は、43年度完成をめざして、五十嵐町から春日町地内に向けて進められています。

さらに、二三三号線(留萌—旭川)の全線舗装化も42年度には完了のはこびとなりです。

このほか、新路線として旭川—留萌間の直通道路がクローズ、アツプされ、昭和42年度から着工されることになっています。

これが完成しますと、距離や時間も短縮され、産業発展に大きな役割りを果たすものと期待がかけられています。

なお、市道から道道に昇格を決定、または予定されているものは、延長十八、五六キロメートルです。

そのほか、五十嵐から駅前を通り、南岸壁に出て、海岸線を通る市道を、現在道々に昇格するよう努力しています。

また、この道路にかけられている橋は、全部で七十四橋の多くに及び、その上五十三橋が、これから改良してゆかなければならない木造橋という現状です。

このように管理する数の多いものを、限られた予算の中で、どこを優先的に工事をするかを決め、計画的な事業を行っています。

これは、土地地区画整理事業の道路や排水の造成分を含め約八千六百一十万人の予算をかけた道路や橋の新



舗装の終わった駅前 大興商事横市道

理する道路、担当は市土木課)に分類されています。いま、留萌市が担当している市道は、総延長 百十七、八九キロメートルあり、その長さは、留萌から余市までの鉄道距離と同じくらいになります。

このうち、市街地内を走っているのは、全体の二八%にあたり、残る七二%は農村道及びその他の地区の道路。

設、改修事業を行っています。とくに、この中で現在工事中の税務署横から放送局までの道路を舗装化するのをはじめ、駅前大興商事横の道路、拓銀横の道路の三本の舗装化が終わり、市道の舗装化が本格的になって来ました。

現在、市道の舗装化は、総体の五、八%にあたる三、五八キロメートルとなっていますが、今後国庫補助事業として、総額一億三千三百万円をかけ、市道の一五—二〇%の舗装化をする計画を樹てています。

さらに、いま留萌市では将来の(大留萌)建設を想定、将来にたいを残さない(総合都市計画案)を製作中ですが、その中で、市街地を形成する道路網をどのようにするか、検討しています。

基本的には、市内に三本の縦走道路を入れることで

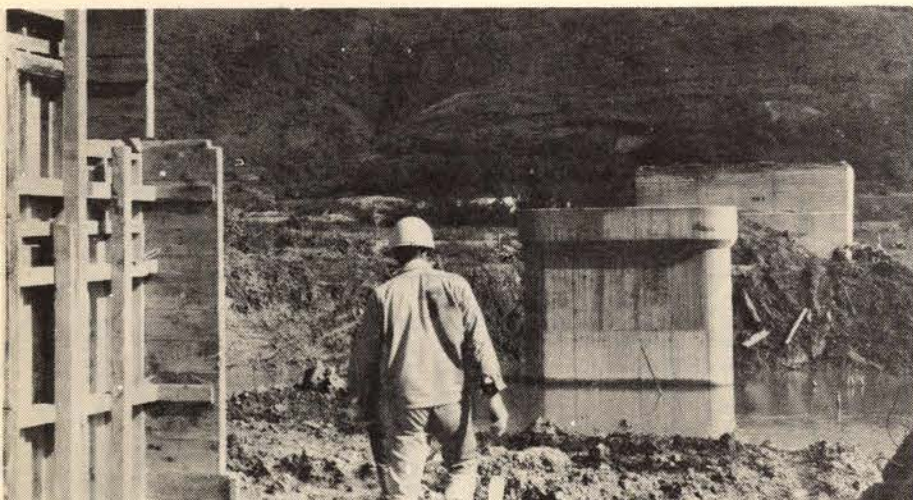
また、この道路にかけられている橋は、全部で七十四橋の多くに及び、その上五十三橋が、これから改良してゆかなければならない木造橋という現状です。

このように管理する数の多いものを、限られた予算の中で、どこを優先的に工事をするかを決め、計画的な事業を行っています。

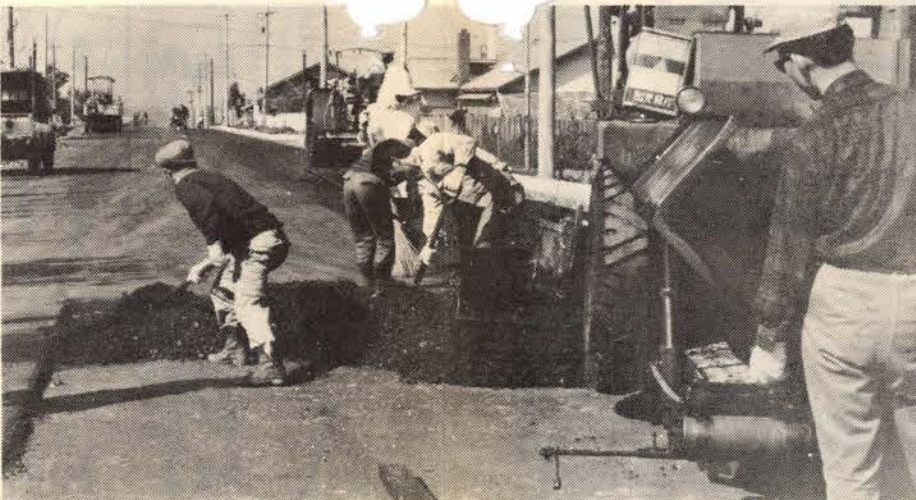
これは、土地地区画整理事業の道路や排水の造成分を含め約八千六百一十万人の予算をかけた道路や橋の新



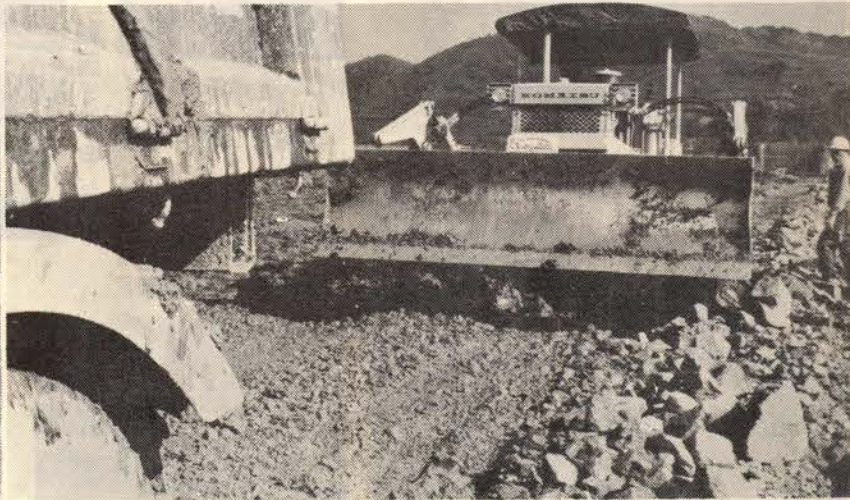
舗装の終わった拓銀横市道



国道留萌—小平間の切替工事は43年度完成をめざしてはじめられた



将来のバイパス路線を考えて市道(税務署—放送局間)の舗装化が進む



道路造成は、機械力を投じ、急ピッチに進められている